

小学校第3学年 国語科学習指導案

期 日 平成27年10月7日(水) 第3校時
 場 所 山江村立山田小学校 3年1組教室
 指導者 教諭 西口 雄一郎

1 単元名

場面のうつりかわりをとらえて、感想をまとめよう「ちいちゃんのかげおくり」(光村図書)

2 単元について

(1) 単元観

本単元は、学習指導要領『C読むこと』(1)ウ「場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の正確や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。」、エ「目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること。」、オ「文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。」をねらいとして設定されている。

本単元は、各場面が一行空きで分けられており、場面の移り変わりがはっきりととらえやすい構造になっている。そして、情景の描写に気をつけて読み、文を引用したり場面をまとめたりしながら感想を書くのにふさわしい作品である。

そこで、自分の意見や感想を述べる際には、単に思いを述べるだけでなく、なぜそう感じたのか、理由を明らかにして述べさせるようにしたい。

(2) 系統観

第2学年(6月)	第2学年(12月)	第3学年(10月) 本時	第4学年(12月)
スイミー	わたしはおねえさん	ちいちゃんのかげおくり	プラタナスの木

教材名	指導事項・言語活動例	C読むこと												
		指導事項						言語活動例						
		ア 内容の中心や場面の様子がよく分かるように音読すること。	イ 目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見の関係を考え、文章を読むこと。	ウ 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。	エ 目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること。	オ 文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。	カ 目的に応じて、いろいろな本や文章を選んで読むこと。	ア 物語や詩を読み、感想を述べ合うこと。	イ 記録や報告の文章、図鑑や事典などを読んで利用すること。	ウ 記録や報告の文章を読んでまとめたものを読み合うこと。	エ 紹介したい本を取り上げて説明すること。	オ 必要な情報を得るために、読んだ内容に関連した他の本や文章などを読むこと。		
どきん	◎													
きつつきの商売	◎			○										
言葉で遊ぼう／こまを楽しむ		◎			○						★			
たのきゆう				◎										
もうすぐ雨に				○			◎		★					
本を使って調べよう／里山は、未来の風景								◎		★				★
わたしと小鳥とすずと／山のとっぺん	・						◎		★					
ちいちゃんのかげおくり			◎		・	○			★					
すがたをかえる大豆	・	◎			○									★
三年とうげ				○			◎					★		
雪／ゆき／雪	・							◎						★
ありの行列		○			◎	・						★		
モチモチの木			◎		・	○			★					

(3) 児童観

- 本学級の児童は物語文の読み取りに対しての意欲や、登場人物の心情を想像したり、その考えを交流したりすることに意欲が高い集団といえる。本教材においても、ちいちゃんの心情を中心に興味・関心をもって読み深めることが期待される。また、話し合い活動についても、よさや必要性を感じている。学習過程に伝え合う場を積極的に設定し、自分の考えをさらに深め、他者の考えからよりよい考えに到達するようにしたい。
- 意識調査の結果から、グループでの話し合いや学習の振り返りについて、考えの形成や深化に有効であると感じている児童が多い。しかし、進んで質問をしたり、自分の考えをまとめたりすることに抵抗感を持つ児童が多く、話し合いや振り返りの視点を明確に与える必要がある。

(4) 指導観

- 問題解決の学習過程となるよう、祖父母交流学习で「戦後70年～今を生きる私たちの思い～」と題した感想文の発表を設定し、戦争時の同年代の子どもたちの様子や思いを知るという問題意識を高めた上で、教材文や関連図書についての感想文を作成するという言語活動を行うようにする。
- 心情の読み深めや、叙述から想像を広げるために思考ツール（イメージマップ）を活用する。付箋紙を用いてグループで交流することで、自分の考えを明確に持ち、他者の考えと比較しながら自分の考えを深めることができるようにする。
- 児童が作成したイメージマップを撮影し、共通課題として電子黒板に提示する。その際には言葉への着目・焦点化を行い、学習課題の解決に迫ることができるようにする。

【視点1】 学びを引き出す 豊かなかかわり合いのある 言語活動	【視点2】 学びを振り返る 思考過程の可視化と 学びの振り返り	【視点3】 学びを支える 学びのUD化と 効果的なICTの活用
【視点1】 言葉への着目・焦点化 問題解決のための学習過程 (単元を貫く言語活動)	【視点2】 思考ツールの活用 メタ認知を促す振り返りの視点	【視点3】 ICTを活用した根拠の共有化 話し合いを進めるファシリテーションスキル

◇インクルーシブ教育の視点から

【基本的環境整備】

- ・「学習計画」や「学習の流れ」を掲示することで、児童に学習の見通しを持たせる。
- ・板書とノートを対応させ構造化を図ることで、考えを深め、思考過程を残せるようにする。

【合理的配慮】

(省略)

3 単元の目標と評価規準

単元の目標	場面の移り変わりに注意しながら読み、人物の行動、情景、会話などの表現に着目して読むことができる。 感想の内容や書き方を比較し、考えの明確さなどについて意見を伝え合うことができる。 細かい点に注意しながら読み、場面をまとめたり、文を引用したりして感想を書くことができる。
国語への 関心・意欲・態度	①場面の移り変わりに注目して読み、進んで感想を書こうとしている。
読む能力	①場面の移り変わりに注目し、それぞれの場面の様子を想像しながら読んでいく。(読むことウ) ②本文を引用したりまとめたりして、文章の叙述に基づき、感想文を書いている。(読むことエ) ③感想を交流する中で、一人一人の感じ方の違いに気付いている。(読むことオ)

4 指導・評価の計画（10時間取扱い 本時6／10）

次	時	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 【3つの視点から】	評価の観点（評価方法） B基準
1	1	○学習課題を設定して学習計画を立てる。	【視点1】 戦争時の子どもたちの思いを知るために、教材文や関連図書の並行読書をし、感想文を書く言語活動を設定する。	関心・意欲・態度①（発言・ノート） 感想文の書き方に関心を持ち、進んで学習計画を立てている。
	2	○題名から物語を想像する。 ○範読を聞いて、あらすじをつかみ、初発の感想を話し合う。	【視点1】 題名に着目することにより、登場人物とその遊びとの関わりを中心に、物語のあらすじを捉えられるようにする。	読む能力①（ノート） 物語のあらすじを捉えて、初発の感想をもっている。
2	3	○二つの「かげおくり」を比べて話し合う	【視点2】 思考ツールを活用することで、二つのかげおくりを比較し、自分の考えを整理できるようにする。	読む能力①（発言・ノート） 場面の移り変わりやその役割を捉えて、内容を理解している。
	4	○第二場面までのちいちゃんの状況や心情を読む。	【視点3】 心情の根拠となる叙述を、デジタル教科書へサイドラインを引きながら示し、考えの共有や練り上げに活用できるようにする。	読む能力①（発言・ノート） 出来事に即して、登場人物の心情を想像している。
	5	○第四場面までのちいちゃんの状況や心情を読む。	【視点1】 共通課題「ちいちゃんの願いはかなったのか」を設定し、戦争が奪ったものについて明確に考えが持てるようにする。	読む能力①（発言・ノート） 出来事に即して、登場人物の心情を想像している。
	6	○第五場面を読んで、場面の役割について話し合う。	【視点2】 戦争の時代と現代のイメージマップを作成させ、叙述から想像を広げ、整理し、自分の考えの根拠として用いることができるようにする。	読む能力①（ノート） 第五場面の役割について、根拠をもとに自分の考えを書いている。
3	7	○感想文の書き方を知る。	【視点1】 教材文や関連図書の並行読書から、どのような感想を持ったのか明確にして文章を構成できるようにする。	読む能力②（ノート） どの部分についての感想か、引用したりまとめたりして表している。
	8 9	○感想文を書く。	【視点2】 マインドマップを作成し、項目ごとに言葉を関連付けながら文章構成ができるようにする。	読む能力②（感想文） 物語から受けた自分の感想が明確になるように文章を構成している。
	10	○感想文を読み合って交流する。 ○単元の学習を振り返る。	【視点3】 交流の視点を明確にし、話し合いを進められるようにする。	読む能力③（発言・ノート） 感想や書き方の違いに気付いている。

5 本時の学習

(1) 目標

第五場面の役割について、他の場面との関わりに注意しながら考え、理由とともに自分の意見を発表することができる。

(2) 展開 (6 / 10時間取扱い)

過程	学習活動	指導上の留意点及び評価	備考
つかむ 5分	1 本時のめあてを確認する。 めあて	○前時までの学習を振り返り、物語の大体を確認する。	単元計画表
	第五場面の様子から、感想をもって話し合おう。		
見通す 10分	2 学習課題について話し合う。 (1) 第四場面と第五場面を比較する。	【視点1】言葉への着目・焦点化 第四場面との比較を行い、共通する表現「きらきらわらう」に着目し、違いを比較することで第五場面の役割を考えられるようにする。 【視点2】思考ツールの活用 戦争の時代（第一～第四場面）と現代（第五場面）のイメージマップを作成後、叙述から想像を広げ、整理し、自分の考えの根拠として用いることができるようにする。	指導者用デジタル教科書
5分 さぐる 5分	(2) 自分の考えをもつ。 ・付箋に考えを書く。 (3) グループで互いの考えを交流する。 ・グループでイメージマップを完成させる。	【徹底指導】(ポイント) 課題の焦点化や思考ツールの使用方法について、電子黒板を用いて提示し、全体で共通理解を図ることができるようにする。 【能動型学習】(ポイント) 交流の目的を「自分の考えを深めるために友だちの意見を聞いて考えをもつ。」と明確に示し、自分の意見と比較しながら話し合うようにする。	思考ツール(イメージマップ) 付箋紙
	【言語活動】(設定の意図) 自分の考えを深めるために、考えの繋げ合いを行い、他者の考えを比較しながら聞き、考えを練り上げることができるようにする。	【視点3】ICTを活用した学びのUD化 児童が作成したイメージマップを撮影し、電子黒板で提示することで、使用方法の確認や共通課題の焦点化を図り、作成の見通しが持てるようにする。 ○何によって「きらきらわらう」状態が生まれるのかを考えさせ、戦争の時代と現代を比較する手がかかりとなるようにする。 ○戦争の時代（第四場面まで）と今の時代（第五場面）を分けて板書し、時代の相違点が視覚的に理解できるようにする。	
深める 10分	(4) グループで話し合った考えを全体で交流する。		
まとめ 5分	3 学習したことを振り返る。 (1) 学習課題に対する分かったこと気付いたこと、めあてに対する学習感想を書く。	評価：読む能力①(ノート) 【B基準】 第五場面の様子を自分と重ね合わせ、根拠を基に自分の感想を持つことができる。	ノート
広げる 5分	(2) 学習感想を伝え合い、次への意欲を高める。	〈B基準に達していない児童(生徒)への手立て〉 ○今の時代の公園の様子をちいちゃんが見たらどう思うかを問い直し、考えが深まるようにする。 ○学習感想では、最初と授業終了時の自分の考えとを比べ、変容について書くように指示する。 ○単元の学習課題、感想文を書く目的を再度確認し、並行読書への意欲を高める。	